

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：32202

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K09182

研究課題名(和文) 単科精神科病院における終末期医療ニーズの研究

研究課題名(英文) A study of end-of-life medical needs in psychiatric hospitals

研究代表者

小林 聡幸 (Kobayashi, Toshiyuki)

自治医科大学・医学部・教授

研究者番号：70296101

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：精神科病院の20年間の後方視的死亡診断書調査では、16病院のデータが得られ、死因としては肺炎を主とする呼吸器疾患、次いで循環器疾患が多いことが確かめられた。しかしながら、認知症で入院し、肺炎で死亡した場合、死因は認知症とすべきという死亡診断書の記載法が浸透しておらず、また、精神科診断の記載のない診断書が多く、肺炎と書かれている場合の多くが認知症と考えられたが、詳細は突きとめられなかった。2年間の前方視的調査では、19病院の調査が可能であった。死因の39%が呼吸器疾患、29%が循環器疾患、10%が悪性新生物であった。精神科診断では64%が統合失調症で、認知症は12%に過ぎなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

院内死亡をすべて調査した20年間の後方視的死亡診断書調査では、認知症の看取りが多いことが示唆されたが、3年以上の長期入院に限った2年間の前方視的調査では、認知症は1割程度だった。ここから推測されることは認知症の終末期を精神科病院が担っている可能性があることである。認知症患者の在宅での看取りが可能になるような対策が必要であろう。他方、精神科病院長期入院の患者の死亡は、依然、統合失調症が多くを占めており、慢性期統合失調症患者の呼吸器感染防止、循環器疾患の早期発見などの院内対策が必要であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：In a 20-year retrospective death certificate survey at psychiatric hospitals, data from 16 hospitals were obtained. It was confirmed that the main causes of death were respiratory diseases, mainly pneumonia, and then cardiovascular diseases. However, many psychiatrists are not familiar with how to write death certificates when a patient is hospitalized for dementia and died of pneumonia: the cause of death should be dementia. There are many medical certificates without mention of psychiatric diagnosis. For this reason, most cases of pneumonia were considered dementia, however the details could not be determined. A two-year prospective survey allowed 19 hospitals to be surveyed. The cause of death was respiratory disease in 39%, cardiovascular disease in 29%, and malignant neoplasm in 10%. Psychiatric diagnoses accounted for 64% of schizophrenia and only 12% of dementia.

研究分野：社会精神医学

キーワード：精神科病院 身体合併症 認知症 統合失調症 肺炎 終末期医療

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

わが国において精神科の入院治療の大多数は単科精神科病院によって担われている。入院患者の高齢化はとみに指摘されていることではあり、それに伴って終末期の医療を精神科病棟で担わねばならない事例が多数生じている。しかし単科精神科病院では常勤内科医はもちろん、非常勤の内科医すらいない施設が大勢を占めている。致死的な急性疾患に陥った精神疾患患者は他科病院への転院を必要とするが、精神症状への対処困難を理由に断られる例が多い(黒木ら、1996)。そのため、身体疾患が問題となっても、総合病院精神科に転院して治療せざるを得ない事態も多々ある。しかし、とりわけ悪性腫瘍などで、積極的治療の適応とならない患者の場合、健康保険上の理由で平均在院日数短縮の圧力下にある総合病院には転科を受け入れてもらえず、精神科病院で管理せざるを得ない事例は多い。身体疾患に慣れていない精神科医や看護師のもとでの治療は患者の利益をそこなっている可能性があるとともに、精神科病院スタッフに負担を強いることにもなる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、単科精神科病院における終末期医療の質の向上である。わが国で精神科入院医療の大多数を担っているのは単科精神科病院であるが、入院患者の高齢化が進み、死に結びつく老年期の疾患を内科常勤医不在の施設で対応しなければならない。本研究では栃木県内 22 精神科病院の過去 20 年間の死亡診断書を集計し、精神科病院でどのような疾患の患者を看取っているのかを調査する。さらに、これら病院を対象に、2 年間にわたり前方視的に長期入院患者の看取りと身体疾患による身体科への転院の実態を調査する。これにより、精神科病院での終末期医療の実態を把握し、今後の精神科病床のニーズとその再編の必要性、精神科医の最低限の内科的トレーニングの必要性について一定の見解が得られ、行政や学会への提言の基盤となる。

### 3. 研究の方法

栃木県精神衛生協会所属の総合病院精神科を除く 22 単科精神科病院(計 5062 床)の過去 20 年間(平成 8 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)の死亡診断書を精査し、病院内での看取りの実態を調査する。

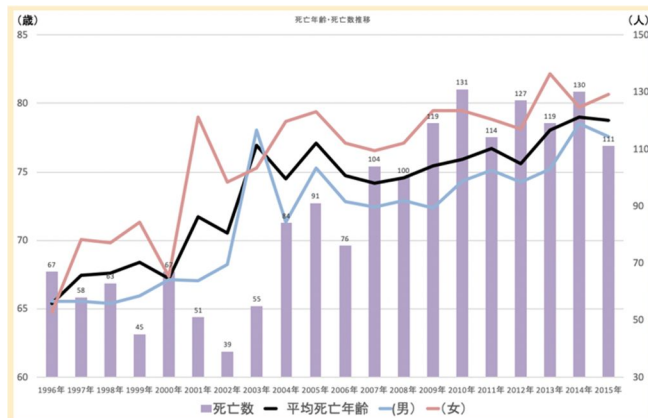
同じく 22 病院における平成 28 年 9 月 1 日現在の長期入院患者(3 年以上継続入院中の患者)を対象に平成 30 年 8 月 31 日までに身体科を受診したか身体科に転院した患者、および院内で死亡した患者を捕捉しその臨床経過を検討する。

### 4. 研究成果

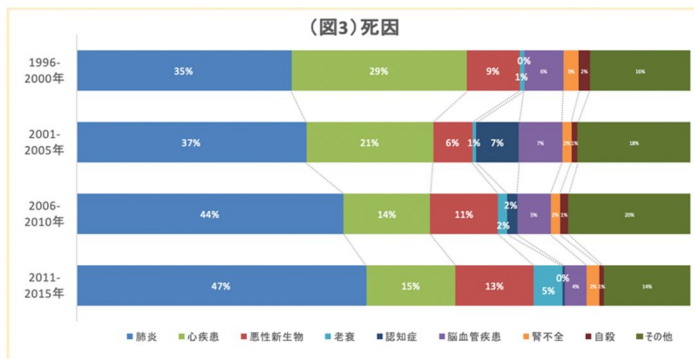
① 栃木県内の精神科病院 22 病院のうち同意が得られた 20 病院(計 4628 床)中 20 年分のデータを得ることができた 13 病院(計 2857 床)の全死亡患者 1767 例を検討した。

平均死亡年齢は 1996 年の 65.1 歳から 2015 年には 78.8 歳と 10 歳程度上昇し、死亡者数は 1995 年から 10 年間の平均が 62 人/年であったのに対し、2005 年以後 10 年間では平均 113.1 人に増加した。

死因については、5 年間ごとの集計を比較すると、心疾患の割合が減少傾向となり、肺炎・悪性新生物・老衰の割合が増加した。認知症・自殺の割合は変化が認められなかった。



② 同じく調査同意の得られた 19 の精神科病院において、平成 28 年 9 月 1 日の時点で 3 年以上入院している患者のうち、平成 28 年 9 月 1 日から平成 30 年 8 月 31 日までの 24 か月間の間に精神科病院で死亡した患者を対象にした。調査対象とは 165 名(男性 96 名、女性 69 名)である。

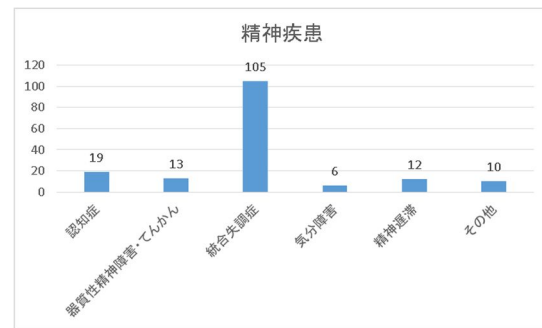


入院時平均年齢は 59.5±18.2 歳、平均入院期間は 15.9±14.4 歳、平均死亡年齢は 75.5±10.2 歳であった。男女差については平均死亡年齢が男性の方が有意に若かった(p<0.001)。統合失調症の診断の有無についてわけると、上記の 3 項目すべてで有意差を認めた。

死因の上位 5 位は、呼吸器疾患 64 名、循環器疾患 48 名、詳細不明 19 名、悪性新生物 17 名、消化器疾患 11 名であった。呼吸器疾患は慢性閉塞性肺疾患(ICD コード: J41-44)が 1 名の他はすべて肺炎とその関連疾患(J12-18)であった。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

精神科診断名は統合失調症 (F20-29) が 105 名と最多であり、全体の 64% (105/165) を占めていた。認知症 (F01, F03, G30) は 19 名で 12% (19/165)、器質性精神障害、てんかん (F00-99, G40-41) が 13 名、知的障害 (F70-79) が 12 名とそれぞれ 7.9% (13/165)、7.3% (12/165) であった。



他方、同じく 3 年以上入院している患者のうち、同期間に身体疾患を扱う医療機関に転院した患者を対象に調査した。精神病院入院から転院までの経過が入院カルテで確認できた患者は 127 名 (男性 74 名, 女性 53 名) である。

対象患者 127 名の平均入院時年齢は 53.6±16.0 歳 (男性 51.1±14.2 歳、女性 57.0±17.7 歳)、精神疾患が統合失調症であったのは 69% (88/127) である。転院時点での平均年齢は全体で 67.4±11.6 歳、男性では 65.2±9.2 歳、女性で 70.4±13.8 歳であり、男性の方が約 5 年有意に若かった ( $p=0.02$ )。統合失調症患者では 65.3±9.6 歳であり、それ以外の患者は 72.1±14.2 歳であることから前者の方が 6.8 歳有意に若く転院している ( $p<0.01$ )。

転院理由の上位 3 位の疾患は消化器疾患 24%、呼吸器疾患 19%、骨折 19% である。

精神科診断名については統合失調症の診断がついたのは前述のように 69% である。精神遅滞または自閉症の診断が 9% (12/127) であった。

転院先のほとんどは大学病院を含めた最寄りの総合病院であった。入院元に帰院したのは 57% であり、約 6 割近くを占めていたが、その全症例が最寄りの総合病院に転院していた。なおカルテ調査で後に死亡が判明したのは 9% (12/127) であった。

20 年の死亡診断書調査では精神科病院の高齢化が確認され、肺炎での死亡が増えており、特に最近では 47% に及んでいることがわかった。これは精神科病院で末期の認知症患者を受け入れ、それが肺炎での死亡に結びついているものと推測される。対象集団が違うので一概に比較はできないが、2 年間的前方視的研究では 3 年以上の長期入院患者の死亡に占める認知症は 12% に過ぎず、入院して 3 年以内で死に至る認知症患者が相当数いることが推測される。精神科病院から転院して死亡している患者は転院患者の 9% であり、大多数の転院患者は死に至らないか、精神科病院に戻って末期のケアを受けているものと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐藤謙伍、小林聡幸、齋藤暢是、佐藤勇人、須田史朗	4. 巻 61
2. 論文標題 統合失調症と器質性精神障害の院内死亡の死因について 精神科病院における20年の死亡診断書調査より.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 339-345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林聡幸、齋藤暢是、佐藤謙伍、須田史朗	4. 巻 39
2. 論文標題 単科精神科病院の院内死亡の高齢化 栃木県三地域病院の死亡診断書調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 栃木精神医学	6. 最初と最後の頁 23-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 齋藤暢是、佐藤 謙伍、小林聡幸、須田史朗
2. 発表標題 院内死亡の高齢化 単科精神科病院の死亡診断書調査 . 会、新潟、2019年6月21日 .
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Saito, N., Sato, K., Kobayashi, T.
2. 発表標題 The situation of terminal care in psychiatric hospitals: an investigation of death certificates for two decades in Tochigi Prefecture
3. 学会等名 WPA XVII World Congress of Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤謙伍、須田史朗、小林聡幸、齋藤暢是
2. 発表標題 統合失調症と器質性精神障害の院内死亡の死因について 精神科病院における20年間の死亡診断書調査より
3. 学会等名 第113回日本精神神経学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤暢是、小林聡幸、佐藤謙伍、須田史朗
2. 発表標題 精神科病院の終末期医療の実態 栃木県における20年間の死亡診断書調査
3. 学会等名 第113回日本精神神経学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林聡幸、齋藤暢是、佐藤謙伍、須田史朗
2. 発表標題 単科精神科病院の院内死亡例の高齢化 栃木県北部病院の死亡診断書調査
3. 学会等名 第36回日本社会精神医学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sato, K., Kobayashi, T., Saito N., Suda, S.
2. 発表標題 Comparison of cause of death in inpatients with schizophrenia and organic mental disorders: a survey of 20 years in a psychiatric hospital
3. 学会等名 The International College of Psychosomatic Medicine 25th World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安田 学、小林聡幸、齋藤暢是、須田史朗
2. 発表標題 精神科病院長期入院患者はどのような身体疾患で転院しているか 栃木県内19病院の前方視的調査
3. 学会等名 第73回栃木県精神医学会・第38回栃木気分障害研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	齋藤 暢是 (SAITO Nobuyoshi) (60742864)	自治医科大学・医学部・助教  (32202)	
研究分担者	須田 史朗 (SUDA Shiro) (40432207)	自治医科大学・医学部・教授  (32202)	
研究分担者	塩田 勝利 (SHIODA Katsutoshi) (40398516)	自治医科大学・医学部・准教授  (32202)	
研究分担者	安田 学 (YASUDA Manabu) (40468343)	自治医科大学・医学部・講師  (32202)	
研究分担者	齋藤 慎之介 (SAITO Shinnosuke) (40726288)	自治医科大学・医学部・講師  (32202)	